

真川上流に見られる手取層群

常願寺川は、富山地方鉄道立山駅周辺から上流では弥陀ヶ原をはさんで北側は称名川、南側は真川と呼ばれている。このうち、真川の上流部は有峰湖と薬師岳にはさまれた地域に位置し、有峰湖からのアクセスが比較的容易である。ここを訪れる人の多くは折立隧道を超えて薬師岳登山を目指す。横道にそれて折立ヒュッテから林道を真川上流方向に向かって歩くと手取層群（中生代）の露頭を見ることができる。このあたりは砂岩や泥岩が多く、よくさがすと、アンモナイトや三角貝などの海生の貝化石が発見でき、このあたりが1億5000万年ほど前は海底だったことがわかる。ただし、この場所は中部山岳国立公園内にあり、採取は禁止されているので注意したい。

写真提供 富山県教育委員会

